

3-25

この寺院も、天と地を結ぶものの象徴として、長くうねる胴体をもつ

ナーガの姿が階段の意匠に使われている。

さらによく知られた美しいデザインは、ランパーン県 コーカ地区のワット・プラタートの階段に現れる。

1475年頃に築造されたこの寺院は、岩石で積み重なる 丘の上に建てられている。長くうねるナーガの優美な 姿が斜面の階段に現れ、天と地を結ぶナーガの力が象 徴されている。

4 ナーガ、神の化身としての国王の象徴

タイの国王が水上運行パレードで乗られる御座船や、 御大葬の際の葬儀車にも、ナーガのモチーフや造形が 数多く登場する。

王室用の客船、アナンタナーカラートはラーマ4世の ために建造されたものだが、その船首は、ヴィシュヌ

3-25 ▶ 巨大なナーガの胴のうねりが 本堂を貫いて長々と伸びる、 ワット・プーミンの特異なデザイン。 3-26 ▶ タイ王室の葬送の行列、 (ラーマ7世の王妃を送る1985年のもの)。 無数のナーガとガルーダに 支えられた黄金の葬儀山車が、 曳きだされる。

3-27▶ラーマ4世

(在位1851-68)時代の御座船。

全長44.85メートルの優美な船体。

船首には、黄金とガラス装飾に彩られた

七つの頭を持つナーガが飾られている。

3-28▶ラーマ5世(1868-1910)時代の

王室用客船の船体の両側面には、

七つの頭をもつナーガが彫りこまれている。

船首に動物神の姿はない。

国王はヴィシュヌ神の化身として

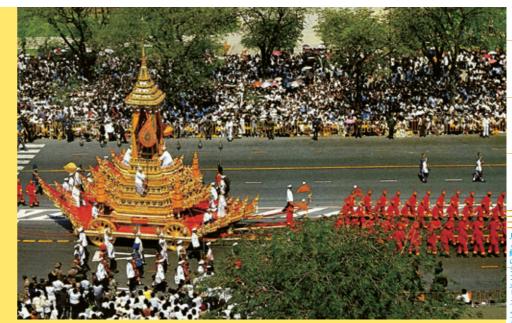
この船に乗る。

●タイ王家の黄金の葬儀山車については、 シンポジウムシリーズの第一冊目、

『動く山』(左右社、2012)の

「タイ王室の葬儀車。靈魂を

天界に運ぶ」に、詳細に記されている。



3-26





3 - 27





3 - 28

114